



【天の川の分水施設の学習と付近の水生物調査】

▼活動の目的

私たちの旧山東町（現米原市）は「鴨と蛍のまち」というキャッチフレーズを町の観光活動の中心にしています。この活動の基礎的な調査や研究は私たちのグループが行っています。しかし、ここ10年ほど調査研究費を町が支給してくれません。そこで調査や研究が特定の少数の人の負担になってしまいます。さらに、その熱心さもだんだん鈍って来ています。そのうえ、調査の範囲が水鳥や蛍からだんだん広くなりため池・河川・ハリヨ・湿原などと自然環境全体に及ぶようになりました。そして、その成果は町市県におよび、環境保全への提言・工事等のアドバイスにより大きく地域に貢献しています。今後この活動をさらに進めたいと考えています。

▼活動の内容

ゲンジボタル・ヘイケボタル・ヒメボタルの発生状況調査（4月～8月）
蛍の発生する環境調査（発生する場所が変化するため）
本年よりヒメボタル（山地）、クロマドボタル（湿地）の発生状況調査（7月～8月）
町内ため池（23ヶ所）及び周辺河川の水鳥飛来状況調査（各月1回）
黒田川浚渫後のモニタリング（水生生物）2年目（12月8ヶ所）
高齢者「環境と健康」講座の指導
年10回（各回約120名参加（4月～1月））
県主催「水すまし事業」の川の生物調査の指導（年4回）



採集した水生生物を種類ごとに入れ水生生物による水質判定を行っているところ。

▼活動の効果

ホタルの調査：ホタル発生環境の改善、町民への環境保全啓発、小中学生の総合学習の指導などに役立った。

「さんとうぼたる祭り」の期日決定、ホタル鑑賞地の決定などは毎年幼虫上陸調査により私たちのアドバイスにより決められている。

「ため池及び付近の河川調査」は本年滋賀県主催の「ため池里山人のにぎわい in しが」で口分田が基調講演を行い「川に学ぶ」大切さを訴え多大の成果を挙げた（1月21日）

川の浚渫廃土で切田池を埋め立てる計画があったが、ため池の調査から切田池の重要性を説明し埋め立てを中止させた。

▼苦勞した点・反省点

ホタルの調査は夜間であり、しかも降雨の激しい夜がよいのでたいへん苦勞している。また一人で数カ所の調査である。（活動の写真は撮れない）

ため池も危険を伴うので、本年は口分田一人で行った。

黒田川浚渫後の2年目のモニタリングは専門的な知識が必要であるので口分田が行った。これらの調査研究はグループの研究紀要「鴨と蛭とサギソウのまち」第17集に掲載する。（5月下旬発売予定）